

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

税の大切さについて

南相馬市立原町第一中学校

3年 原田 怜奈

私達は、身の周りのいろいろな所で税金を支払ったり、利用したりしています。

例えば、学生が勉強に欠かせない教科書です。毎年、当たり前のように先生から配られ、これからどんなことを勉強していくのだろうと、ワクワクした気持ちで一冊一冊を確認していましたが、裏表紙までしっかり見ることはあまりなかったと思います。しかし、名前を書き終わった後に、何気なく目に留まったのが次の文章です。

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

その時は、そうなんだ、としか思いませんでしたが、社会の授業で税金について学習し、税金について改めて考えるようになりました。そして、初めて税金の大切さ、ありがたさに気付くことができたのです。

私は、2011年3月11日の東日本大震災を経験しており、そこでも税金が使われていました。主に、仮設住宅、道路、がれき撤去、学校や市役所の建て直しにも使われています。

また、高齢化が増えている昨今、高齢者や失業者への生活保護費の支援、福祉サービス、医療サービスなどにも利用されています。

このように、税金はいろいろな所で使われており、私達にとってなくてはならない、毎日の生活を支えてくれる大切なものです。

しかし、社会の教科書を見ると、最近、年金保険料を払わない人が増えていることが分かりました。そして、保険料の不足分を税金でまかなっていることも。なぜ払わないのでしょうか。

その理由の一つは、少子高齢化が進んで保険料を納める世代が減り、給付を受ける世代が増える中、将来自分が年金を受け取れるかわからないからだそうです。でも、それは間違っていると思います。なぜなら、それは自分の順番が回ってきただけの話だからです。いつか自分が年齢を重ねて働けなくなったら、次の世代が自分達の生活を支えてくれます。だから、今は自分の番だと考えたらどうでしょうか。将来年金がもらえるかどうか不安なら、政治に関心を持ち、今の制度を維持できる国にしていけばいいと思います。教科書に書かれていた「これからの日本を担う」という意味が身近な存在であると気付きました。

税金が足りなくなれば、私達に必要なサービスが受けられなくなります。税金を確保するためには、国民全体の理解と協力は欠かせません。税金を払う人は、定期的に決められた税金を納めて義務を果たすこと。そして学生である私達は、税金でまかなわれている学校の水や電気などを大切に使うこと。

こうして国民全体が自覚を持って税金を払い、無駄なく大切に使うことにより、未来の子供達のためにもよりよい日本にしていくべきだと思いました。